

目次(抄)

第1部 社会科の基礎論

◆第1章 社会科の性格◆

公民的資質
社会科の学力
国際理解教育
環境教育
情報教育
愛国心
多文化教育
社会的な見方や考え方
社会参画
シティズンシップ教育
公共性

◆第2章 社会科の成立と展開◆

地域に根ざした社会科
地歴並行学習
「公民的分野」の成立
人権教育・同和教育
教科書問題
「地理歴史科」「公民科」の成立
生活科の成立と社会科

◆第3章 地理教育論◆

地理的な見方や考え方
地図・地球儀学習
環境決定論・環境可能論
産業学習
生活・文化学習
まちづくり学習
地理的技能
資源・エネルギーと地理教育

◆第4章 歴史教育論◆

歴史意識
人物学習
前近代史教育
近代史学習
現代史学習
東アジアと歴史認識
オーラルヒストリー
グローバルヒストリー
災害と歴史教育

◆第5章 公民教育論◆

政治的な見方や考え方
経済的な見方や考え方
福祉教育
法教育
消費者教育
主権と領土
社会参加と公民教育

グローバル化と公民教育

金融教育

生命倫理・環境倫理

第2部 社会科の実践論

◆第1章 社会科の授業論◆

問題解決学習
探究学習
表現活動
博物館利用
映像資料の活用
体験学習
「評価規準」と「評価基準」
ノート

地域人材の活用

習得と活用と探究

言語活動と社会科

ICTの活用

◆第2章 社会科の実践◆

川口プラン

桜田プラン

福沢プラン

奈良プラン

北条プラン

西多摩プラン

本郷プラン

第3部 現代社会からの発信

◆第1章 新しい時代の学校像と社会科◆

情報化社会の進展
グローバル化の進展
メディア環境と子ども
地域連携と社会科
特別支援教育と社会科
食育と社会科
PISA調査と社会科
安全教育／防災教育
キャリア教育
少子高齢化と社会科
格差社会と社会科
校種間連携と社会科

◆第2章 諸外国の社会科の動向◆

アメリカの社会科の動向
韓国の社会科の動向
フィンランドの社会科の動向
シンガポールの社会科の動向

◆第3章 社会科と関連諸科学◆

心理学と社会科
政治学と社会科
法学と社会科
民俗学と社会科
文化人類学と社会科
哲学・倫理学と社会科

第1部 社会科の基礎論		第1章 社会科の性格	
第1部	公共性	リチャード・セネット (Sennett R.) の「公共性の喪失」等があるが、本稿ではこれらに立ち入ることなく、社会科で公共性が課題として取り上げられる背景と学習内容等について取り上げる。	第1章
	◆公共性の意味	◆公共性が課題となる背景	◆公共性の意味
	公共性とは、私的な事柄と対比される公的な事柄の範囲や性質、価値等を示す総称であり、様々な場面で用いられる。たとえば公共事業や公共団体の「公共」は、事業の便益や団体の設置目的などが私的な利益ではなく広く社会の利益に及ぶことを意味する。公共財や公共サービスとは、国の防衛や灯台のように、他者を排除して独立して消費することができな	公共性とは、私的な事柄と対比される公的な事柄の範囲や性質、価値等を示す総称であり、様々な場面で用いられる。たとえば公共事業や公共団体の「公共」は、事業の便益や団体の設置目的などが私的な利益ではなく広く社会の利益に及ぶことを意味する。公共財や公共サービスとは、国の防衛や灯台のように、他者を排除して独立して消費することができな	「国民生活」における「地方公共団体や国の政治の働き」：政治の持つ公的な働きについての学習に当たる。 【中学校社会科】（公民的分野） 「現代社会をならえる見方や考え方の基礎」としての「対立と合意、競争と公正」「効率と公正」については、市場を通じた資源配分と公的部門による資源の供給や調整の関連について扱うことができる。 「社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きに委ねることが難しい課題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割」：ここでは社会資本の整備などは、市場での供給が難しく、政府による公的な供給が必要との認識に立っている。 【高等学校公民科】（現代社会） 「社会の在り方を考察する基礎として、善悪、正義、公正などについて理解させ」「正義」「公正」を取り扱う際に「公共」の視点を欠かすことはできない。 「自由・権利と責任・義務」：基本的人権の保障の重要性と責任・義務との関連を個人と社会、公共の視点から取り上げることができる。 また、中学校社会科地理的分野、公民科では「持続可能な社会」の観点から学習が行われる。地球環境問題や資源・エネルギー問題、社会保障と福祉などの課題を取り上げる場合、世代間の視点と同時に「公」と「私」の視点が有効である。 （工藤文三）
	◆公共性の課題	◆公共性の課題	◆公共性の課題
	◆公共性の課題	◆公共性の課題	◆公共性の課題

商品に関するご照会・お申し込みは

フリーコール（通話料無料）
電話受付時間：平日9時から17時

TEL：0120-953-431
FAX：0120-953-495

Web
サイト

URL：http://gyosei.jp

キリトリ線

部

申込書

◎上記のとおり申し込みます。
御住所（〒 ー ）
平成 年 月 日
〔社費・公費・私費〕
フリガナ
御氏名
TEL
e-mail
新刊情報を（希望する / 希望しない）